

# English Wind

小学校全教職員及び

中学校英語科担当教員配布

英語教育の



## 1 言語活動を通じた指導について その2

言語を習得させるためには、授業ごとに獲得した知識及び技能等をその都度定着させていくようなブロック積み上げ型での学習方法では難しく、同じことを繰り返す学習過程の中で定着が図られる、漆塗り型の授業の構築が求められてきます。そのため、言語活動においても繰り返す場面を設け、今求められている英語の力を育成していきたいものです。その際、機械的に言語活動を繰り返すだけではなく、言語活動の目的や場面の設定を変えたり、理解につなげるための指導を十分に確保したりしながら、育成すべき資質・能力を身に付けさせていくことが重要となります。

ブロック積み上げ型ではなく、漆塗り型の授業へ

言語活動の目的や場面を変え、繰り返しの中で定着を



帯学習で言語活動

教科書本文で言語活動

ICTを活用して言語活動

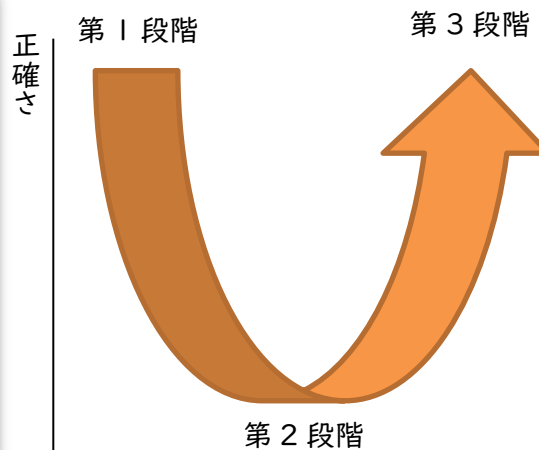
単元末の課題として言語活動



## 2 U字型発達曲線 (U-shaped development)

これは言葉の発達の様子を表した図で、U字型発達曲線と呼ばれています。縦の軸が「言葉の正確さ」、横軸が「時間の流れ」となります。言葉の習い始めは正確に使えますが、しばらくすると正確さが下がります。しかし、使い続けることで、また正しく使えるようになります。

子どもたちの言語活動の様子を見て、「この前教えたばかりなのにもう忘れたの!」と思うこともあるかと思います。しかし、教えたことはすぐには身に付きません。子どもたちが学習したことを上手に使用できない場面を目にしたら、「今は第2段階にいるのか、成長しているな」と考えて手立てを講じると、余裕を持って対応できるようになります。



「小学校英語はじめての一步」(太田洋、阿野幸一)を参考に義務教育課が作成

2月8日(木)に、令和5年度小中英語パートナーシップ事業年度末報告会が開催されました。県内7地区より小中それぞれの研究拠点校が集まり、これまでの実践報告や小中連携における英語教育の在り方について研究協議を行いました。本事業では令和3年度より3年間に渡って、各研究校でCAN-DOリストを設定・活用した授業づくりに取り組んできました。毎年秋に実施された授業公開では、児童生徒の発信力強化を目指した授業が行われ、3年間で約1000人もの小中英語担当教員が授業を参観しました。

各校が作成したCAN-DOリストは、3月中に福島県教育委員会のホームページに掲載する予定です。学年や学期、単元毎のCAN-DOリストや、小中の接続を意識したものなど、様々なスタイルのリストが作成されております。各学校におけるCAN-DOリストの設定や見直しに、ぜひ御活用ください。

CAN-DOリストの活用

Unit8 He can bake bread well. 彼はパンが焼ける。 (英) 焼く、作る (日)

Unit9 Think Globally, Act Locally

小学校でのCAN-DOリスト

中学校でのCAN-DOリスト

取組③ 校内研修

- ・実技研修&講話
- ・授業動画視聴
- ・ICT研修
- ・各研究部会

より実践的な学びを

授業研究部 学習環境整備部  
資料統計部 ICT活用・情報収集部

会津若松市立第五中学校  
による実践報告



いわき市立中央台東小学校  
による実践報告



これまでの研究校の実践内容については、義務教育課のホームページに掲載しております。どうぞ御覧ください。

令和4年度小中英語パートナーシップ事業 推進地域実践報告(東北地区)

共通テーマ 「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

拠点校 I (本宮市立本宮第一中学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ タブレットを活用し、実践的な対話形式やナレーションなどのアウトプット活動を多く取り入れた。</li> <li>□ CAN-DOリストを活用し、身に付けたい資質・能力を生徒と共有することで学習のゴールの見通しをもたせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タブレットでの録画により、生徒が自分の姿の変容を把握したことで、よりよい発表とするために、繰り返し取り組むようになった。</li> <li>○ 見通しをもたせることで生徒に必要な感をもたせ、帯活動をととして、語彙力や表現力を身に付けさせることができた。</li> </ul>
拠点校 II (本宮市立本宮まゆみ小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 児童がわくわくするような課題を設定し、タブレットで画像を見せながら自分のことを英語で表現する活動を行った。</li> <li>□ CAN-DOリストについて、教師が小・中学校での児童生徒の実態について情報交換を行いながら作成した。</li> <li>□ Google Driveに共有フォルダを作り、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームステイで自分のことをホストファミリーに英語で紹介する課題設定により、児童が主体的に話す内容を変えたり、画像を編集したりして、英語で生き生きと自己表現できるようになった。</li> <li>○ CAN-DOリストを児童と共有したことで</li> </ul>

こちらからどうぞ